

ジョジョのクリニック日誌より -医療支援10月分の一部-

- 10月1日：サムラングとラムブソンに風邪薬他6種類のコミュニティー常備薬計250錠を配布。
- サムラングのヘルスワーカー・リジャがサムラングの2-14歳の子供80人を対象として、栄養状態を量る体重測定と回虫駆除薬の投与を実施。なお、リジャは、キアミとラムブソンでも、それぞれ10月8日と13日に、合計201名の子供を対象に栄養状態調査と回虫の駆除薬投与を実施。（出産休暇中のCMBクリニック責任者ジョジョに代り、リジャがコミュニティー訪問実施中）
- 10月20日：血尿が6日間続いたキアミの女性（38歳）の病院での検査料、薬代を支援。
- 10月24日：カプリン・コミュニティーで巡回診療実施。患者は歯科、内科あわせて約100名。医師は地元のボランティア。医薬品代のみ支援。合計10,850ペリ（約33,000円）。
- 10月25日：下痢と嘔吐が続いたサムラングのマービン（10ヶ月）の入院費支援。
- 10月30日：ヘルスワーカーのエルサを通じてモトクリング・コミュニティーへ常備薬50錠配布。（なお、ジョジョは11月に女児を出産、12月17日に職場復帰しました。）

—1日1ペリ提出に協力しないコミュニティーは薬の配布中止も—
支援に全面的に頼らないようにと発足した医療互助システムが一部キアミ、モンゴカヨなどのように担当神父の指導が行き届いているコミュニティー以外で機能停止中です。（

詳細は次ページ森田さん報告）

—巡回診療実施の最大のネックはやはり最悪の交通条件—
ボランティアで診療を申し出はしたものの、コミュニティーに至る道のりの遠さ厳しさに二の足を踏む医師が多いとか。
アトゥモロックの場合、2年前の11月以来実施していない。

—アトゥモロックの道ようやく復旧？—

「マルンゴン町の町長がようやくミアソンからアトゥモロックまでの道路補修をこの1月に始めると約束してくれた。」CMBディレクター、Fr. デオが12月末知らせてきました。巡回診療の医師のため、病院に搬送される重症者のため、そして収穫物を町の市場に運ぶ上でも不可欠なこの補修が、またまた口約束に終わらないように願っています。

事務局



森田さんが見舞った時の様子。
この二日後に息を引き取った。

奨学生近況報告

<悲報>

HANDS 支援の医療プログラムを通じて入院していたアトゥモロックの4年生ガスラニアとキアミの2年生ジェニーが7日と14日に相次いで死亡しました。もっと早期に本格的治療がされていたらと残念です。

<感謝>

12月10日にはアトゥモロックとラムアフス分校の5、6年生の社会見学を実施しました。ジェネラルサントス空港で初めてジェット機を目の前にし、港では大きな船に特別乗せてもらっておおはしゃぎ。初めての海水浴も楽しみました。一方、ハイスクールとカレッジの奨学生は、10日から11日にかけて、寮や海辺でのクリスマスパーティで大いに盛り上がりました。これらはいずれもHANDSの協力がなかったら実現できなかったもので、子どもたちの大歓声を思い出して感謝の念でいっぱいです。

<がんばれ！>

「とてもよく働くいい子どもたちですが、学力の方はちょっとね・・・」HANDSハイスクール奨学生13名が通うノトルガム・スラの聖パウロ会シスターたちの印象です。この学校には授業料減額や、今は又構内に寮新設中など便宜を図ってもらっています。山の分校卒業時にはみんな平均点85%以上の成績でも、言葉のハンディなどで他の生徒に追いつくのは容易でないようです。

（報告：小学校校長兼奨学生担当 Ms.ノーマ・バナレス、森田奈美 文責：山崎）